

飲んで未来へつなごう 牛乳を飲んで 酪農家さんを応援

毎日欠かさない牛乳、でも……

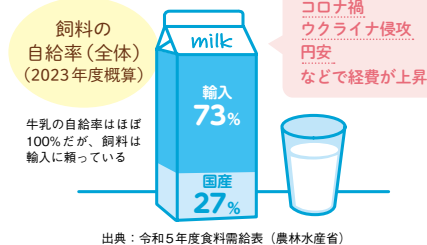
毎日の食卓に、学校の給食に、と欠かせない牛乳。最近、牛乳や乳製品の価格が「高くなった」と感じる方も多いのでは？

実は今、酪農家の皆さんを取り巻く状況は厳しさを増しています。牛のエサであるトウモロコシなどの穀物や牧草の多くは海外から輸入されていますが、ロシアによるウクライナ侵攻や円安などで価格が高騰。燃料や電気代など生産に関わるあらゆる経費が上昇し、多くの酪農家にとって厳しい経営状況です。

このため牛乳や乳製品の原料である「生乳」の価格が値上げされ、酪農家の収入も増えましたが、経費の上昇に

は足りていません。国産の飼料を増やすなどの取り組みも進められています。が、簡単ではなく、酪農をやめてしまつ生産者も減っています。

酪農家を取り巻く状況は厳しくなっている



牛は生きもの、すぐには調整できない

コープデリグループでは、日本の生産者や産地を応援する取り組みを行っています。その一つが、牛乳・乳製品の消費拡大を通じて酪農家の皆さんを支援する「飲んで 未来へつなごう 日本の酪農」。毎日のコップ1杯が、酪農家の皆さんへの応援につながります。

牛乳・乳製品が値上げされると、「牛乳を買う本数を一本減らす」と消費が減ってしまいます。ところがその分の生産を減らすのは簡単ではありません。牛が1頭あたり1日に出す乳の量は平均約30kg。乳を搾らないと病気になるつため、すぐには止められません。また乳牛が生まれ、十分な量の乳を出せるようになるまでには約3年かかります。工業製品のように、消費に合わせて生産量を減らしたり増やしたりできないのです。

コストが上昇し、消費が減る苦しい状況が続けば、生産をやめる酪農家ももっと増え、牛乳や乳製品がさらに買いつらくなる日が来るかもしれません。

飲んで・食べて
生産者を応援！



このロゴが目印！

そこでコープデリグループが取り組んでいるのが、生産者応援の取り組み「飲んで 未来へつなごう 日本の酪農」。宅配の商品カタログやお店のポスターなどで、牛乳・乳製品の利用を呼びかけています。また各地のイベントなどで、組合員の皆さんにこうした酪農を取り巻く状況を伝えながら、牛乳の飲み比べをしたり、アレンジレシピを考えたり、もっとたくさん牛乳や乳製品を利用する取り組みを進めています。

毎日牛をお世話し、私たちにおいて牛乳や乳製品を届けてくれる酪農家の皆さんにとって、一番の応援は私たちが牛乳を飲み、乳製品を食べること。コープデリグループは、組合員の皆さんとともに、これからもずっと日本の酪農を応援します。



みんなで酪農家さんを応援！

コープみらい



応援メッセージを届けました

イベント開催時に、来場した組合員の皆さんから酪農家の皆さんへの応援メッセージを募集。CO・OPコープ牛乳を生産している様名酪農業協同組合連合会の酪農家の1人、株式会社長壁牧場（群馬県）の長壁徹郎さん（写真右）に、埼玉西南ブロック*委員長の内野知春さんからメッセージをお渡ししました。

安全で安心な牛乳を生産するよう心がけていますが、輸入飼料が高騰し、大きなダメージを受けています。皆さんに応援していただき、とてもうれしいです。これからも少しでも多くの牛乳・乳製品を手にとっていただければと思います。



いばらきコープ



感謝の気持ちを伝えました

北部ブロック*では、組合員の皆さんにはがきでの酪農家の皆さんへの応援メッセージ募集を呼びかけ、48枚ものはがきが集まりました。またコープひたちなか店では店頭でリーフレットを配布し、組合員の皆さんに応援メッセージを書いていただきました。これらのメッセージを、CO・OPコープ牛乳の生産者である有限会社瑞穂農場の皆さんにお渡ししました。

コープデリにいがた



まごころタオルを贈呈しました

毎年、組合員の皆さんから未使用タオルをお寄せいただき、応援と感謝の気持ちを込めて「まごころタオル」として新潟県内の酪農家の皆さんにお届けしています。牛の清潔さを保ち、病気になるよう乳を搾る際に1頭ずつタオルを使うため、たくさんタオルが必要です。2024年度は3,214枚ものタオルが集まり、酪農家の皆さんに喜ばれました。

*各生協では事業地域をブロックまたはエリアに分け、各地域で組合員活動を行っています

コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成を目指しています。



今回の取り組みは、目標12：

つくる責任 つかう責任

につながっています。

